

9月の例会は「パッチギ！」

例会選定会議の報告

例会選定会議の報告

8月3日に、参加者は8名とやや寂しかったものの、来年1月以降の例会作品の候補を選定するために例会選定会議を行いました。

まず、推薦作品を出し合い、日本、アジア、欧米に分類し、絞り込んでいきました。

日本映画では、テンポの良いエンターテインメントドラマ「ニワトリはハダシだ」、プロレスラーとその息子を描いた中島らも原作のハートウォーミングドラマ「お父さんのバックドロップ」、沖縄のさとうきび刈りのアルバイトに集まった若者を描く「深呼吸の必要」、2004年のカンヌ国際映画祭で柳楽優弥が男優賞を受賞したことで話題となった、母親に置き去りにされた兄妹たちだけで生きていく姿を描いた「誰も知らない」、戦後日本の女性地位確保に努めたベアテ・シロタ・ゴードンのドキュメンタリー「ベアテの贈りもの」が候補にあがりました。日本映画は地方では上映機会が少ないので、参加者の中では1~2名しか観ていない作品が多いみたいです。

アジア映画では、5年前に公開されたチャン・イーモウ監督のラブ・ストーリー「初恋の来た道」、美しい山間の村を舞台に初恋の男女の10年ぶり出会いと切ない運命を綴った「故郷の香り」、自閉症の障害を抱えた青年がフルマラソンに挑戦する姿を感動的に綴った「マラソン」、モンゴルの草原を舞台にした白いラクダのドキュメンタリー「らくだの涙」が候補になり、その他、他の地域の作品を探そうとしたのですが韓国映画の話題が続きました。

欧米映画は、本命の「コーラス」は揺るぎませんでした。この作品は、戦後間もないフランスを舞台に、問題児たちが集まる寄宿舎に赴任してきた音楽教師と子どもたちとの合唱を通じた心温まる交流を描いたものです。その他、故郷であるトルコの古都コンスタンチノーブルを追われたギリシャ人一家を巡る物語「タッチ・オブ・スパイス」、キューバでの青春ロマンスを描いた「ダンシング・ハバナ」、恋と老いをめぐる切なくも美しい大人の物語「ラヴェン

ダーの咲く庭で」、バレエ・ダンサーを目指す少年の姿を描いた4年前の名作「リトルダンサー」の推薦がありました。

結果としては、1月例会は「コーラス」、3月例会は「ニワトリはハダシだ」、5月例会は「マラソン」を基本に準備を進めることとなりました。フィルムの入手条件などにより変更の可能性はあることはお含みおきください。

会員の皆さんの中で、この近くの映画館で観ることのできないようなおススメ映画があれば、是非、推薦ください。

次回例会



名称 / 第20回例会「パッチギ！」

日時 / 2005年9月14日(水) PM1:50~、PM4:10~、PM6:30~

場所 / 加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩15分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

受付 / 入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しくください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

タイトル / パッチギ！

監督 / 井筒和幸

製作 / 李鳳宇

原案 / 松山猛『少年Mのイムジン河』(木楽舎刊)

出演 / 塩谷瞬、高岡蒼佑、沢尻エリカ、楊原京子、尾上寛之、真木よう子、小出恵介、波岡一喜、オダギリジョー、光石研、加瀬亮、キムラ緑子、余貴美子、大友康平、前田吟、笑福亭松之助、ぼんちおさむ

データ / 2004年、日本、カラー、1時間59分、35mm、
ドラマ / 青春
ストーリー

1968年の京都。東高校2年の松山康介はある日、担任の布川先生から指示を受け、常日頃争いの絶えない朝鮮高校へ親善サッカーの試合を申し込みに行くハメになった。そして、親友の紀男と共に恐る恐る朝鮮高を訪れた康介は、音楽室でフルートを吹くキョンジャという女生徒に一目惚れしてしまう。間もなく彼女の兄が朝鮮高の番長アンソンであることも知る康介。それでも彼はキョンジャと仲良くなるため、楽器店で知り合った坂崎からキョンジャが演奏していた『イムジン河』という曲を習い、彼女の前でギターで弾こうと決意するのだが...

「ゲロッパ!」「岸和田少年愚連隊」の井筒和幸監督が60年代の京都を舞台に描いた青春群像ドラマ。ザ・フォーク・クルセダーズのカバーでも知られる朝鮮分断の悲しみを歌った名曲『イムジン河』をモチーフに、騒動を巻き起こす日本と在日朝鮮の高校生たちの恋や友情を熱く感動的に綴る。

前回例会の報告

7月14日の例会は、ナチス占領下のフランスを舞台に、平凡な中年男が、なりゆきでユダヤ人の子供たちを匿い逃亡を手助けするために決死の選択をすることになった姿を、時にはコミカルに描いた感動作品「パティニョールおじさん」を鑑賞しました。ふだんは厳しい感想の人たちも「意外と良かった」ということでした。参加会員125人。

感想から

・期待どおりとても良い映画でした。「ビューティフル・ライフ」を思い出しました。暗いきびしい時代でも、一握りの良心的な人は実在しただろうと思います。もう二度と戦争をおこしてはいけません。誤りは犯してはいけないという思いを改めて強く思いました。少年の愛らしさによけいに胸がふさがれます。今後共こういうヒューマンもお願いしたいものです。

第34回映画大学に参加して

7月16日から3日間、大津で開かれた映画大学に16・17日と参加しました。各地の24映画サークル、個人が100名も参加。初めての参加でどきどきしながら第1講座 山田洋次監督「今、私が思うこと」第2講座 金勝浩一(美術監督)「美術監督の仕事」翌17日に第3講座「ターンオーバー」試写会と女優藤村志保さんの「大映、そして今」の3講座を受けました。山田監督のお話は眠たい、などというわさを聞き、どうなることかと思っていたらなんのこと、大学の講義のような問答方式で、参加者全員どきどきしながらお話にのめりこみました。小津安二郎監督の「東京物語」を読み解くというもので、ワンシーンをみて一言で言えばどんな映画か、内容について、小津監督の意図するものとは、テーマは何ぞや、と矢継ぎ早の質問に参加者は、いつ自分にあてられるかもしれないと一生懸命考えてしました。この「東京物語」を読み解く中で想像がふくらんでくる映画は、とてもすばらしいことを教えていただきました。

金勝美術監督のお話は、俳優さん以外は美術の世界であること。台本から映像に至るまでの製作過程をお話いただきました。朴訥としたなかにもまじめさがうかがわれ、知ることのない舞台裏をみたような気がしました。

藤村志保さん主演の「ターンオーバー」は、「二人日和」と題名がかわるかもしれないこと。高齢期を迎えた夫婦のお話に心温まるものを感じました。藤村志保さんはみかけはおっとりでしたが、歯切れのよい口調でびっくり。大映時代を語っていただきました。夜には交流会に参加。各地でそれぞれ、大きい小さいはあってもがんばっている様子が報告されました。創立3周年の私たちは、まだまだヒヨッコ。明日に向かって頑張ろう!(山本和)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 197人(7月14日現在)